

# 平泉寺発掘20周年

平泉寺で初めて発掘の鉄音を聞いたのは平成元年のことです。それから20年が経ち、「中世宗教都市」平泉寺の姿が次第に現れてきました。これまでの成果と、今後の整備についてご紹介します。



地中から姿を現した中世の平泉寺僧坊跡

## 発掘当初から貴重な遺物が

平成元年、平泉寺白山神社本殿から南東方向に約500メートル離れた山林内で始まった発掘調査は、平泉寺に關係する初めての考古学的な調査となりました。

地表を約30cm掘り下げると、地中から500年ほど前の中世の僧坊跡（僧侶の住居跡）や川原石を敷きつめた石畳道が顔を出しました。また、おびただしい数の土器・陶磁器類も出土しました。



井戸の中から見つかった銅銭

特に、中世の僧坊跡の井戸内からは、200枚を超える銅銭の他に、全国的に発掘例の少ない包丁や汁杓子など大変珍しい木製品が出土しました。平成元年の調査は、平泉寺が想像を遙かに超える、貴重な遺跡であることが判明した調査でもあったのです。

## 全国屈指の史跡に

発掘調査が進むにつれて、中世の平泉寺の全貌が浮かびあがってきました。1574年に一向一揆によって焼き討ちされる以前の境内は、現在の白山神社境内の10倍以上の広がりを持ち、東西1・2km、南北1kmの範囲に広がることになったのです。そして、境内中心部の尾根上には、四十八社・三十六堂と呼ばれる主要伽藍が建ち並び、両側の谷には六千坊と呼ばれる僧侶の屋敷群が配置されていたのです。

特に、白山神社の南側に広がる南谷三千六百坊跡からは、緩斜面を階段状に造成した多数の僧侶の屋敷群の他、縦横に張り巡らされた石畳道など、「中世宗教都市」平泉寺の実態が浮かびあがってきました。現在のところ、平泉寺で発掘された中世の石畳道は、国内最大規模となっています。また、各所から発掘されている中世の石垣は、全国に例を見ない石つくりの都市を彷彿とさせます。



平泉寺の象徴ともいえる石畳道。20年前は土の中だった。

こういった発掘成果を受けて、これまで白山神社境内だけであった国史跡（重要文化財）の範囲が、平成9年には、全国屈指の規模といえる、かつての境内全域約200ヘクタールに拡大されました。

## 平泉寺本格整備元年

白山国立公園に含まれる樹齢数100年の杉木立の中、青苔が絨毯をしきつめたように生えた苔の宮平泉寺を訪れる人は多く、平泉寺は福井県を代表する自然景観豊かな、また、歴史景観豊かなところといえます。しかし、現地で平泉寺の歴史や史跡について理解を深めることは難しいのが現状です。

そこで、勝山市では、今年度から5か年計画で文化庁最大の補助事業である「史跡等総合整備活用推進事業」の採択を受けて、史跡平泉寺の本格整備をスタートさせました。

今回の整備では、総合案内施設となるガイドダンス施設の建設や発掘地の整備、僧坊の門や土塀の復元など、史跡平泉寺の魅力が体感できる整備が計画されています。



出土した青白磁観音像

# 白山文化フォーラム2008

今年で8回目となる「白山文化フォーラム2008」が、7月13日に市内外から約2500人の参加のもと盛大に開催されました。

問 史蹟整備課 ☎88・8113

## 史跡

午前中、第1部の「平泉寺史跡見学会」が、2班に分かれて行われ、約1000人が参加しました。市芸員から、発掘調査も今年で20年となるが全体の1%しか進んでいないことや、平成元年や2年に発掘された僧坊跡に案内され、当時の生活の様子などについて説明されると、参加された皆さんは大変に感動を受けた様子でした。



史跡見学会（僧坊跡の発掘現場）で学芸員の説明を聞いている参加者



展示資料を見る参加者

## 展示

教育会館2階では、昨春に発表された中国製の青白磁観音像をはじめ、当時の生活用品など20年間に発掘された主な遺物や説明用のパネルが展示され、参加された皆さんは熱心に見て回っていました。ロビーでは、簡易アニメ「泰澄大師物語」も上映されました。さらに今年も、勝山写真コンテストの入賞作品も1階ロビーで展示され、盛り沢山の展示となりました。

## 講演

午後からの「市民フォーラム」では、まず、「山岳信仰と白山」と題して、国学院大学の梶山林継教授が講演を行いました。

講演の中で梶山教授は、「白山は日本のほぼ真ん中に位置し、白山の水は日本海へも太平洋へも流れていることや、白山周辺にはいたるところに温泉があり、薬草も生えていること、また、古くから芸能など文化が大事にされ残されていることが特徴である。」と話していました。

世界文化遺産登録を目指している勝山市と勝山市民にとって、本当に心強い講演となりました。



梶山林継教授の講演

## 討論

講演後には、県立歴史博物館の笠松雅弘主任学芸員をコーディネーターに、梶山林継教授、平泉寺白山神社の平泉隆房宮司、郡上市長滝白山神社の若宮多門宮司、白山市白山比咩神社の村山和臣禰宜をパネラーに討論会が行われ、テーマを「白山信仰の拠点、三馬場」と題し、活発な意見が交わされました。三馬場がそれぞれ独自の歩みをしてきた中でも、水や能など白山麓の自然と文化について共通する部分も多く見られ、今後三馬場が協力したいとの共通の意見がありました。



左から コーディネーター 笠松雅弘 梶山林継 村山和臣 若宮多門 平泉隆房 学芸員 教授 禰宜 宮司